

D—1 乳児用衛生用品についての研究(第5報)

——ベビーパウダーの殺菌制菌効果——

福岡女子大 平松 園江
高木 葉子

1) おむつかぶれ、あせもは尿尿や汗で長く湿潤しているためとその中の成分またはその分解物が皮膚を刺激するためにおこると思われる。それ等を予防するため適度に入浴させ、おむつを交換しその際ベビーパウダーが用いられる。ベビパウダーの効能は乾燥、発汗抑制ならびに皮膚面の摩擦を少なくし炎傷を防ぐほか、殺菌制菌剤を配合し清潔を保つよう配慮されている。われわれはベビーパウダーの殺菌制菌効果について検討し購入の際の判定基準の一つを明らかにした。

2) 菌はアンモニア生産に関係のある *Brevibacterium Ammoniagenes* KTC, *Proteus Vulgaris* H×19, *Esherichiacoli* B の3種、試料は亜鉛華澱粉タルク硼酸炭酸カルシウムと市販パウダーに配合されている殺菌・制菌剤 Hexachlorophan, Methyl benzethonium chloride 外5種と市販ベビーパウダー5種を選んだ。普通寒天培地および尿素ブイヨン培地に試料を混入し、これに菌を接種し37°C 1昼夜培養後増殖阻止の状態をしらべた。

3) 主成分各種のうちタルク炭酸カルシウム澱粉は制菌効果がない。亜鉛華は *Br Ammoniagenes* には制菌効果があるが他の2菌にはない。硼酸はA菌P菌に殺菌・制菌効果がありE菌に制菌効果がある。配合殺菌剤7種中では Methyl-benzetonium chloride が一番低濃度(0.001%)で制菌効果があり他は0.1%濃度で制菌効果がある。市販ベビーパウダー中米国製J社品は国産の2社3種の製品より制菌効果は劣っている。